

友の会講演会(東京)

開催年月	回	講師	タイトル	会場参加者	備考
1982年6月19日	1	白鳥芳郎	中国南部の少数民族—西双版纳の水かけ祭から	—	人数不明
1983年11月25日	2	祖父江孝男	日本人はどう変わったか	—	人数不明
1984年9月7日	3	石毛直道	アメリカ人と日本料理—ロサンジェルスのレストランの調査から	124	
1984年11月12日	4	片倉もとこ	イスラーム文明と現代文明	113	
1985年4月23日	5	君島久子	中国少数民族の祭と伝承—貴州・雲南を中心として	118	
1985年7月27日	6	小山修三	アボリジニの世界	98	
1985年11月1日	7	加藤九祚	シルクロードの十字路カフカス	125	
1986年6月13日	8	杉田繁治	民族学からみた情報社会	89	
1986年9月27日	9	和田正平	文化としての父親	76	
1986年12月12日	10	藤井知昭	アジアの吟遊詩人	96	
1987年1月29日	11	大森康宏	烏帽子の子たち	105	
1987年4月24日	12	周 達生	西南中国の人と生活	102	
1987年7月24日	13	栗田靖之	雷龍の王国ブータン	98	
1987年11月27日	14	大丸 弘	ヨーロッパのマナーと日本人	76	
1988年1月29日	15	松澤員子	パイワン族の芸術と社会	93	
1988年4月15日	16	松山利夫	オーストラリアの狩人Ⅰ	113	
1988年7月22日	17	松山利夫	オーストラリアの狩人Ⅱ	98	
1988年11月11日	18	大塚和義	大興安嶺とアイヌ文化	91	
1989年3月24日	19	吉本 忍	インドネシアの更紗	86	
1989年6月16日	20	杉本尚次	都市とスタジアム—野球に見る日米文化比較	60	
1989年9月8日	21	友枝啓泰	インカのあと450年	110	
1989年11月17日	22	吉田集而	ニューギニア・イワム族の戦闘と食人	66	
1990年3月9日	23	石森秀三	旅とフィールド・ワーク	88	
1990年4月27日	24	端 信行	アフリカ仮面の世界	68	
1990年9月6日	25	中牧弘允	蔓は力、葉は光—アマゾンの幻覚宗教	58	
1990年11月2日	26	福井勝義	開発援助における民俗知識の再評価	46	
1991年3月15日	27	祖父江孝男	モースの時代—明治初期の日本と日本人	63	
1991年6月7日	28	櫻井哲男	日韓文化比較の一視点	69	
1991年9月20日	29	吉田憲司	仮面結社の世界—チェワ族の調査から	72	
1991年10月25日	30	永ノ尾信悟	インドの山車巡行祭	82	
1992年1月17日	31	松原正毅	遊牧の世界	91	
1992年5月15日	32	秋道智彌	魚と日本人	72	
1992年7月17日	33	大塚和夫	イスラームの祭	77	
1992年10月9日	34	小山修三	アボリジニ社会の伝統と変容	89	
1993年1月29日	35	伊東一郎	ロシア民謡の民族学	67	
1993年6月11日	36	大塚和義	アイヌ民族と国際先住民年	71	
1993年8月20日	37	大森康宏	映像からみた日本人像(中止)	—	台風のため中止
1993年10月8日	38	吉本 忍	ジャワ更紗の伝統と現代	67	
1994年3月18日	39	松澤員子	台湾先住民の伝統と変容	52	
1994年4月22日	40	大森康宏	映像にみる日本人像	49	
1994年8月26日	41	加藤九祚	チベットの旅	73	

友の会講演会(東京)

開催年月	回	講師	タイトル	会場参加者	備考
1994年11月18日	42	周 達生	中国茶の世界	51	
1995年3月10日	43	米山俊直	伝記・ライフヒストリー・文化人類学	35	
1995年4月21日	44	山本紀夫	楽器からみたラテンアメリカ	32	
1995年7月7日	45	伊東一郎	カリンカとはなにか	11	
1995年10月13日	46	八杉佳穂	現代マヤ—色と織りに魅せられた人々	95	
1996年1月19日	47	山下晋司	観光開発と文化の創造—バリと遠野	66	
1996年4月26日	48	熊倉功夫	シーボルトとお茶	43	
1996年7月12日	49	松平 誠	現代日本の都市の祭り	40	
1996年10月25日	50	白杵 陽	アラブから来たユダヤ人—イスラエルへの移民とその文化	47	
1996年12月6日	51	栗田靖之	情報展示への道	47	
1997年4月18日	52	和田正平	アフリカ研究の軌跡—30年来のフィールドワークから	50	
1997年7月4日	53	祖父江孝男	日本人の変わった点と変わらない点と—戦後50年をふりかえる	79	
1998年2月6日	54	片倉もとこ	続アラビア・ノート	40	
1998年4月4日	55	吉田憲司	フィールド・ワークとしての展示—「異文化へのまなざし」展をめぐる	30	
1998年7月3日	56	大塚知則	遊牧民をたずねて—モンゴル	37	
1998年9月11日	57	小長谷有紀	モンゴル草原の人生絵巻—特別展「大モンゴル展」へのいざない	102	
1998年12月-日	58	加藤九祚	シルクロードにおける考古学的新発見をめぐる	—	人数不明
1999年4月16日	59	石森秀三	南太平洋の文化遺産—スライドによる企画展の企画	45	
1999年8月6日	60	松平 誠	江戸のまつり、佃のお祭り	73	
1999年11月27日	61	中牧弘允	カレンダーに見る「越境する民族文化」	38	
2000年5月27日	62	大塚和夫	いまを生きる人類学—『季刊民族学』の連載を終えて	30	
2000年9月1日	63	大森康宏	進化する映像—影絵からマルチメディアへ	29	
2000年12月9日	64	舟田詠子	アルプスでパンの原風景を見る	16	
2001年5月20日	65	近藤雅樹	渋沢敬三とアチック・ミュージアム	48	
2001年11月9日	66	大塚和義	特別展「ラッコとガラス玉—北太平洋の先住民交易」によせて	11	
2002年7月13日	67	立川武蔵	マンダラとはなにか	40	
2004年1月24日	68	清水昭俊	民族学と文化人類学(印刷博物館見学と同時開催)	37	
2004年3月13日	69	大塚和夫	アラブ・ムスリム世界の今日	36	
2004年5月29日	70	庄司博史/金 美善	在日外国人の集住地域をめぐる	27	
2004年7月10日	71	ティムール・ダダバエフ	中央アジアの多民族社会における「民族間対話」—「地域社会対話」の仕組み	20	
2005年1月22日	72	田村克己	文化人類学の社会的活用—はじめに	67	
2005年2月20日	73	印東道子/馬場悠男	モンゴロイドがたどった道—オセアニアへの人類移動&国立科学博物館見学会	38	
2005年3月13日	74	波平恵美子	病・老い・死への現代的対応	70	
2005年5月14日	75	宇田川妙子	文化人類学の社会的活用③ 文化人類学とフェミニズム	27	
2005年7月10日	76	加藤泰建	高等教育(大学)における文化人類学	41	
2005年9月24日	77	松園万亀雄	国立民族学博物館の課題と役割—グローバル化の中で	50	
2005年10月22日	78	杉本良男	インド・モダンの世界—ファッションとライフスタイルの変化	51	
2006年4月2日	79	野林厚志	こどもとおとなをつなぐもの—人類学がみつめるこどもの文化	38	
2006年10月14日	80	吉本 忍	世界に展開するジャワ更紗のデザインと技術	134	
2007年4月21日	81	山本紀夫	山本紀夫写真展「雲の上で暮らす—アンデス・ヒマラヤ・チベット—」関連	110	
2008年3月20日	82	塚田誠之	高床式住居に暮らす—中国・チワン族の生活世界	18	

友の会講演会(東京)

開催年月	回	講師	タイトル	会場参加者	備考
2008年6月22日	83	加藤九祚/大村次郷/西岡圭司	座談会「街角から見たウズベキスタンの過去と現在」	110	
2008年7月6日	84	松原正毅	嗜好品の人類学的意味	90	
2008年10月26日	85	竹沢尚一郎	人類学のあゆみ① フランス・イギリスの人類学—マリノフスキーからレヴィ=ストロースまで	10	
2009年1月17日	86	竹沢尚一郎	人類学のあゆみ② アメリカの人類学者たち—ボアズ、バネディクト、ギアツ	32	
2009年7月25日	87	加藤泰建	アンデスの遺跡と人びとのくらし	9	
2009年9月13日	88	小谷凱宣	海外所蔵のアイヌ民族資料—先住民博物館をめぐる	11	
2009年9月26日	89	岸上伸啓	カナダ先住民のいま—イヌイトと北西海岸先住民の世界	9	
2010年1月17日	90	池谷和信	先住民の現在を読み解く① アフリカの狩猟採集民の事例から	22	
2010年2月28日	91	松山利夫	先住民の現在を読み解く② 先住民としての「権利」獲得とその後	21	
2010年4月10日	92	須藤健一	文化人類学に生きる—館長就任1周年を迎えて	34	
2010年5月22日	93	佐々木史郎	東北アジアのシルクロード—人びとをつなぐ河の道	39	
2010年7月19日	94	長野泰彦	チベット ボン教とは何か	110	
2011年1月16日	95	菊澤律子	ことばの歴史・ひとの移動史	43	
2011年3月26日	96	小山修三	「梅棹忠夫 語る」の背景	59	
2011年4月30日	97	石毛直道	梅棹忠夫の人となり	55	
2011年6月26日	98	松原正毅	梅棹忠夫先生の学問世界	53	
2011年9月24日	99	佐々木史郎	アイヌ文化への憧憬(あこがれ)	37	
2011年10月29日	100	杉本良男	本物のインドらしさ—南インド、タミル人のアイデンティティ	32	
2012年4月15日	101	横山廣子	ビデオテークより ペー族の映像民族誌—制作過程で考えること	33	
2012年6月9日	102	小林繁樹	貨幣経済を問う視点—オセアニアの島と島をつなぐ交易活動から、私たちのくらしを考える	19	
2012年9月22日	103	竹沢尚一郎	アフリカを食べる—西アフリカと共に生きる	41	
2012年12月9日	104	陳 天璽	世界のパスポート/パスポートの世界	73	
2013年3月30日	105	深澤秀夫、飯田 卓	何処にでもある何処にもない世界 マダガスカル	60	
2013年6月30日	106	小長谷有紀	トゥバ人たちの住むところ—21世紀の「探検」談	44	
2013年12月21日	107	三尾 稔	ビデオテークより 婚礼に映しだされるインドのいま	24	
2014年3月9日	108	須藤健一	国立新美術館での「イメージの力」展開催にあたって	46	
2014年6月28日	109	小長谷有紀	梅棹忠夫のモンゴル調査をたどる	52	
2014年10月19日	110	菅瀬晶子	多みんぞくの街・新大久保とハラールフード産業	28	
2015年4月11日	111	岸上伸啓	「氷の島」に生きる人びと—グリーンランド・イヌイトの文化と歴史	42	
2015年6月14日	112	南真木人	インナータライにネパール近代化の縮図をみる—チトワン国立公園の開発を例に	31	
2015年8月23日	113	樫永真佐夫	食の歳時記—ヘトサム、黒タイの村から	30	
2015年10月10日	114	八杉佳穂	チョコレートの文化誌—カカオと人の 4000年の物語	43	
2016年4月23日	115	庄司博史	国境の地に生きる—フィンランド・カレリアとエストニア・セトウの人びと	46	
2017年1月9日	116	小笠原小夜、齋藤玲子	「アイヌ・アート」をもっと身近に—イラストレーションから踊りまで	55	
2017年2月25日	117	西尾哲夫	異文化が交差する物語—アラビアンナイトからのぞく中東世界	48	
2017年5月13日	118	小長谷有紀	モンゴル高原における遊牧民の遺産	54	
2017年7月15日	119	吉田憲司	文明の転換点における博物館	51	
2017年11月23日	120	佐藤浩司	巨石の島に生きる—インドネシア・ニアス島の家屋と集落	38	
2018年1月27日	121	藤本透子	カザフの食と儀礼—ひとの一生を彩る草原の恵み	44	
2018年4月14日	122	野林厚志	のこされたミッション—EEM(万博資料収集団)からみんぱくへ	28	
2018年6月23日	123	三尾 稔	ヒンドゥー教祭礼の読み解き方	47	

友の会講演会(東京)

開催年月	回	講師	タイトル	会場参加者	備考
2018年12月8日	124	丹羽典生	野次から応援へー応援の比較文化論の試みから	33	
2019年3月9日	125	伊藤敦規	米国先住民ホビの暮らしと世界観	44	
2019年7月13日	126	塚田誠之	チワン(壮)族の文化の資源化の現状	42	
2019年9月14日	127	福岡正太	世界の楽器を探る	34	
2020年1月25日	128	吉岡 乾	消滅の危機に瀕した言語	62	
2021年12月18日	129	山本清龍/広瀬浩二郎	なぜさわるのか、どうさわるのかー触察の新展開をめざして	40	
2022年10月23日	130	藤田祐樹/小野林太郎	島世界に進出したサピエンスと海のある暮らし	46	
2023年1月28日	131	末森 薫	古代エジプト文明の新たな研究拠点ー大エジプト博物館への日本の支援	40	
2023年2月26日	132	八木百合子	ペルーの民芸品制作と職人たちのいま	30	
2023年4月29日	133	鈴木英明	インド洋西海域の奴隷制と奴隷交易	43	
2023年6月24日	134	岡田恵美	人はなぜ共に歌うのか？ーインド山岳民族ナガの伝統ポリフォニーと共生社会	63	
2023年9月17日	135	竹村嘉晃	神になる人びとー南インド・ケーララ州のテイヤム祭祀	39	
2024年3月23日	136	島村一平	生まれ変わりを信じるということ	40	